

公認心理師学部カリキュラムの問題点と改善の方向性

京都女子大学 発達教育学部

箱田裕司

国家資格 「公認心理」誕生の意義

- 心理学の**初の国家資格**
- 活躍が想定される領域：**多岐に渡る**
 - 保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等
- 学部で心理学を学び、その上で大学院で専門教育を受ける
 - **学部抜きではない！**
- 現場（とりわけ保健医療現場）での**実習**を重要視
- 日本における心理学の歴史にとって画期的であり、心理学の社会への展開が期待される。**しかし、**

学術会議での心理学に関する議論

- 心理学教育プログラム検討分科会
- 健康・医療と心理学分科会
- **教育課程編成上の参照基準：心理学分野**（委員長 利島保氏）
2014年9月
 - 文部科学省高等教育局長からの依頼
 - 心理学の定義
 - 心理学に固有の特性
 - 心理学を学ぶ全ての学生が身に付けることを目指すべき基本的な素養
 - ①心のはたらきとは何かを実証に基づいて理解する、
 - ②人間に共通する心的作用や行動パターンから、心と行動の普遍性を理解する、
 - ③心と行動の多様性と可塑性を理解する、
 - ④心理学の社会的役割を理解する

心理学に固有な特性

- 人間の心について科学的に探求する視点
- 「学問知」と「フィールド知」の双方向的関係、相互作用
 - 実験室的知見の現実社会への展開、応用
 - フィールドからの理論構築
- 社会的諸課題に応える視点
 - 家庭内暴力、子どもや高齢者の虐待、いじめやひきこもり、閉じこもり、自殺などに現れた現代社会の諸問題にどう応えるか。

学修方法において強調している点

- 講義

- 基礎科目としては、オリエンテーションとしての心理学概論(心理学史を含む)と心理学研究法、方法論の基礎となる心理統計やテスト構成・質問紙構成法などの講義が含まれる。
- 専門領域科目

- 演習・セミナー

- オリジナルの文献を自分で調べ、場合によって追試のための実験や観察を行い、それについて報告し論議しあう

- **実験・実習**

- 問題解決のための方法論としての理解や倫理的配慮・考察の重要性

- **卒業研究・卒業論文**

- **学修の成果を、自分自身が行う研究活動として結実させる。**

「公認心理師」のいくつかの重要な問題点

- 学部教育は「公認心理師」カリキュラムを意識せざるを得ない。

→→→ どの大学のカリキュラムも**金太郎飴**
没個性、ユニークな授業の消失

日心のアンケート(2018.8.6)でもこの不安が記述

「大学の特色が弱くなる」「大学の独自性をどう出すのか」

- 膨大な科目群

- 相対的に基礎系科目の比重低下(特に出題割合については後述)
- 小規模大学でやれるか?
- 周辺大学との**コンソーシアム**の構築が可能か?
今のところ、厚労省はそれを認めていない(大学事務局担当者談)

- 公認心理師科目群と教職科目群を取ろうとすると、大学のCAP制に引っかかる!



- ⑦知覚・認知心理学 ⑩健康・医療心理学
- ⑧学習・言語心理学 ⑪福祉心理学
- ⑨感情・人格心理学 ⑫教育・学校心理学
- ⑩神経・生理心理学 ⑬司法・犯罪心理学
- ⑪社会・集団・家族心理学 ⑭産業・組織心理学
- ⑫発達心理学
- ⑬障害者(児)心理学(心理学関連科目)
- ⑭心理的アセスメント ⑮人体の構造と機能及び疾病
- ⑯心理学的支援法 ⑰精神疾患とその治療
- ⑱心理学的支援法 ⑲関係行政論

カリキュラム・出題基準は専門家の手によるものか？

- 「学習・言語心理学」
 - 「学習」で行動主義について話した教員が、「言語」で、チョムスキーの行動主義批判を紹介するのか？
 - 「社会・集団・家族心理学」を1人で講義できる人は日本で何人いるか？
 - 「感情・人格心理学」は誰が講義するのか？
 - 感情心理学と人格(パーソナリティ)心理学の両方を専門としている人はいる？
 - ナカグロ(・)科目の花盛り 教育内容の希薄化を招く。
 - ナカグロ科目を1, 2と並べて希薄化を防ごうとする努力をしなくては！
 - 例 知覚・認知心理学 I 知覚・認知心理学 II
(知覚心理学) (認知心理学)
- それでも以前は認知心理学 I、IIとして半期ずつやっていたので1/2に希薄化している。

卒論が消えた！

- 卒論は大学で学んだ、心理学研究法、心理統計、心理学実験、個別の専門科目等の知識と技術を総動員して、**問題を発見し、解決する場**。一番、学生を成長させる機会であり、学生は自信をつける。
- 一般企業に就職するにせよ、心理学専門職に就くにせよ、研究者になるにせよ、卒論の経験は生きてくる。
- このような役割を果たしてきた卒論をカリキュラムから消せば、計り知れない悪影響を及ぼす。

必要なのは証拠に基づいた論理的能力

- 医療現場はサイエンスの現場
 - 証拠に基づかない諸説を振りかざしても役に立たない。
 - 医師、コメディカルの人たちと共通の基盤＝サイエンス がないと話が通じない。
 - evidence-base でものごとを考える習慣を学部時代に醸成する必要がある。
 - 心理学研究法、心理学実験、心理学統計法、基礎心理学科目は重要。
- 国家試験の出題割合 実践に偏りすぎている！

国家試験の出題割合（試験段階2018年）（丹野義彦先生提供）

分野	問題数	%	ブループリント
公認心理師	6	4%	9%
アセスメント	12	8%	8%
心理的支援	12	8%	6%
医療	35	23%	20%
福祉	12	8%	9%
教育	24	17%	9%
司法	6	4%	5%
産業	16	11%	5%
基礎心理学	31	20%	25%
計	154	100.0%	

さらに減って20%

さらなる基礎心理学の軽視

改善の機会はあるか？

- 5年後見直しに向けて、改善点を明示しよう！
- 欠落している、不足している分野、領域の指摘
 - 例 生物系心理学がない。進化心理学はどこで話が聴けるか？
- ブループリントの是正
 - 例 「社会及び集団に関する心理学」 出題割合 約2%
 - 科目としては「社会・集団・家族心理学」であるので、社会心理学は $2\% \div 3 = 0.6666\%$!
 - 発達の約5%、教育の9%と比べても低すぎる。
 - 出題割合の見直しが今後、必要！
- 心理実習80時間
 - 学部では長すぎる、実習は大学院に回すべき。
 - 学部では基礎的な科目をじっくりやるべき！
- 「関係行政論」は担当者探しに難儀。これは「公認心理師の職責」に含めてはどうか？

本シンポはきっかけに過ぎない。よりよいものにするため、意見を集約し、日本心理学会、心理学の各専門学会、学術会議から厚労省、文科省に見直しを迫ろう！